

磯城郡議員団だより

芝 和也 Eメール info@k-shiba.jp
川西町結崎 8 6 2 - 7 0745-43-2415
吉田 容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
田原本町大木 1 1 3 - 5 090-5257-4446
森 良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
田原本町鍵 2 8 1 - 1 0744-33-8570
(事務局) 池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
三宅町屏風 4 4 0 - 5 0745-43-2661

政党助成金ため込む 1 2 年分

安倍内閣閣僚ら
1億1844万円

安倍晋三首相を含む第2次安倍改造内閣の閣僚19人、副大臣25人、大臣政務官27人の計71人のうち45人が、2012年に総額7億3652万5000円の政党助成金を受け取り、1億1844万9015円も使い残してため込んでいたことが本紙の調べでわかりました。国民には消費税増税を押し付けながら、政府構成員自ら税金を“私物化”している形です。今月末には、このため込み分を含めた13年分の政党助成金使途報告書が公表されます。

政党助成金の原資は国民の税金です。余ったら国庫に返納するのが原則ですが、政党助成法では「基金」の名で積み立て翌年に繰り越すことを可能としているため、返納されることはほとんどありません。

本紙の調べによると、公明党の太田昭宏国土交通相を除いて安倍首相と自民党の閣僚18人は自らが支部長を務める政党支部で総額3億1090万円の政党助成金を党本部から受け取りましたが、安倍首相と11人の閣僚が4177万182円をため込みました。最高額の山谷えり子国家公安委員長は、11年も820万円をためこんで繰り

越し。12年に受け取った政党助成金1000万円を合わせた全収入の7割がため込み額です。

副大臣では、公明党の3人を除く22人が3億7112万5000円を受け取り、うち17人が2881万1789円をため込みました。大臣政務官では公明党3人と政党支部への交付のなかった自民党1人を除く23人が3億5925万円を手にし、うち16人が4786万7044円の政党助成金を使い残し、国庫に返納していません。

一方、政党助成金の使い道で目立つのは、「選挙関係費」として本人あてに行っている100万円単位の「寄付」。安倍首相を含め閣僚12人、副大臣13人、大臣政務官10人の計35人が総額2億3544万8544円の「寄付」を行っています。12年に1775万円の政党助成金を受け取った高市早苗総務相、塩崎恭久厚労相はそれぞれ本人あてに1220万円、1300万円の「寄付」をしています。本人あての支出はその後、何に使ったかわれず、不明です。

2014年9月20日(土)

菅官房長官 沖縄を訪問
辺野古上空から
視察に怒り
住民「基地つくらせぬ」

「辺野古(へのこ)の埋め立てを粛々と進める」。こう公言してはばからない菅義偉官房長官は17日、第2次安倍改造内閣発足後、初めて沖縄県を訪問しました。菅長官は米軍新基地建設が狙われている名護市辺野古など県内の米軍基地をヘリコプターで上空から視察。「新基地建設反対」を訴えている住民らは辺野古沿岸の砂浜や海上から「工事の強行は許さない」「美(ちゅ)ら海を守るぞ」と拳を上げて抗議しました。(関連記事)

政党助成金を100万円以上、使い残した閣僚、副大臣、大臣政務官(敬称略)		
閣僚	山谷えり子国家公安委員長	1333万5194円
	江渡聡徳防衛相	813万5456円
	安倍晋三総理大臣	694万6249円
	松島みどり法相	550万0009円
	岸田文雄外相	375万1360円
	官義偉官房長官	237万3930円
副大臣	有村治子女性活躍相	103万7188円
	西村康稔(内閣府)	696万6210円
	城内実(外務)	484万6360円
	山際大志郎(経済産業)	422万1671円
	丹羽秀樹(文部科学)	417万3955円
	北川イッセイ(国土交通)	299万4364円
	左藤章(防衛)	257万4880円
	阿部俊子(農水)	119万9083円
	橋本岳(厚生労働)	1342万0345円
	宇都隆史(外務)	1002万4010円
大臣政務官	小泉進次郎(復興)	714万5567円
	中根一幸(外務)	628万0908円
	関芳弘(経済)	282万2553円
	赤間二郎(総務)	203万8070円
	大塚拓(法務)	151万4231円
	大塚高司(国交)	118万0977円
	中川郁子(農水)	105万3977円

辺野古の浜と米海兵隊キャンプ・シュワブゲート前のテントで、連日座り込みを続けている市民が浜辺に勢ぞろいし、浜辺に「NO BASE! (基地いらない)」と、流れ着いた海草や流木で描きアピールしました。

ヘリコプターは辺野古上空を数分間飛行して去っていきました。

ヘリ基地反対協議会の安次富(あしとみ)浩共同代表は「視察は一瞬だった。パフォーマンスでしかない」と安倍政権の姿勢を批判し、「新たな基地はつくられない。翁長雄志(おながたけし)県知事を誕生させ勝利しましょう」と呼びかけました。

辺野古に住んでいる女性(20)は「日本政府は県民の声を聞かない。沖縄の基地は本当に必要なのか疑問です」と憤りました。

新基地の建設菅氏「粛々と」
仲井真知事らと会談

辺野古などの視察を終えた菅氏は、那覇市内で仲井真弘多(なかいまひろかず)知事らと会談し、米軍普天間基地(宜野湾市)に代わる辺野古・新基地建設について「安全を確保した上で粛々と進める」と表明。内閣改造で兼任することになった沖縄基地負担軽減担当相として、安倍政権の進める米海兵隊垂直離着陸機オスプレイの佐賀県をはじめとする全国での運用拡大などを挙げ、沖縄の「基地負担の軽減」アピールに終始しました。

新基地建設反対の県民総意や自身の公約に背いて新基地推進に転じた仲井真知事は、菅氏の負担軽減担当相就任を「政府の意思の表れ」と歓迎し、普天間基地の5年以内の運用停止や米軍機の騒音対策を要望。菅氏は「しっかり対応していきたい」とのべたものの、要望への具体的な言及は避けました。

沖縄振興に関して菅氏は、10月30日告示(11月16日投票)の知事選で3選をめざす仲井真知事の支援を見据え、政権として地元の要望に最大限、応えていく姿勢を示しました。

会談には宜野湾市の佐喜真淳市長も同席しました。

2014年9月18日(木)

若草山の風

9月中旬の休日、息子夫婦が妻の両親と皆で遊びに行こうと誘ってくれました。

大型の車に乗り込み、近場の奈良公園へ。好天氣の初秋の連休とあつて皆この季節を待ち望んでいたようで、広しと言えどもこの日の奈良公園は鹿の姿もかすむ程の人出で賑わっていました。

大仏殿では孫たちは「鼻の穴の柱をくぐる！」と大いに期待していましたが長蛇の列を見て諦めざるを得ませんでした。その分、公園では持参したバトミントンやおもちやバットでの野球にはしやぎ、「小鹿に鹿煎餅をあげたいのに逃げて行ってしまうー」とままならぬ鹿の反応を嘆いていました。そして車は奥山ドライブ

ブウェイを走り、若草山の頂上へ。眼下に広がる奈良盆地の絶景に感動！心地よい風と緑の山並み！いにしえの人々はここで何を見、何を感じたのでしょうか。

県は若草山にロープウェイを造る計画をしていましたが、世界遺産としての景観を損ねるなどの反対があり、断念したようです。が、次はバスを走らすという案も出ているようで、これ又安全面、景観面で物議をかもし出しているようです。

便利さ、集客を重視するのではなく、いにしえの若草山を保存していつて欲しいと初秋の風が私の耳元で囁いている気がしました。

田原本議会議員 森 良子



憲法と原発

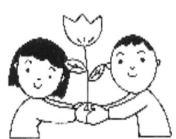
先日、大和高田市内で吉井英勝（元衆議院議員・参議院議員）氏の「憲法と原発―再稼働の夢想は許されるか」講演を聞きました。

吉井氏は「自民党や民主党、野党の一部議員などが憲法がアメリカからの押し付け憲法だ」という発言に対して、日本国憲法が公布されるときに天皇の勅語があり、この勅語は『本日、日本国憲法が公布せしめた。この憲法は、帝国憲法を全面的に改正したものであつて、國家再建の基礎を人類普遍の原理に求め、自由に表示された國民の總意によって確定されたものである。即ち、日本國民は、みづから進んで戦争を放棄し、全世界に、

正義と秩序とを基調とする永遠の平和が實現することを念願し、常に基本的人権を尊重し、民主主義に基づいて國政を運営することを、ここに、明らかに定めたものである。

朕は、國民と共に、全力をあげ、相携へて、この憲法を正しく運用し、節度と責任とを重んじ、自由と平和とを愛する文化國家を建設するやうに努めたいと思う。』いっており、その後、日本国憲法はと続いております、今の自民党などの押し付け憲法批判は天皇に対する批判や攻撃となる」。

憲法が公布される時の天皇の発言は国会議員手帳にはつきりと印刷されているという事です。三宅町池田年夫



高齢者肺炎球菌ワクチン補助

九月議会の補正で、来月一〇月から高齢者肺炎球菌ワクチンに補助が付くことになりました。

これにより、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる肺炎球菌感染症の約七割を予防できるそうです。

この菌は、主に氣道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約三〇～五〇％の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているときられます。これらの菌が何らかのきっかけで進展すること、で、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがある

そうです。

補助対象者は、今年四月二日から来年四月一日に六五歳、七〇歳、七五歳、八〇歳、八五歳、九〇歳、九五歳になる方です。その他、一〇〇歳以上、心臓、腎臓、呼吸器に重大な疾患がある方等も対象です。自己負担額は三千円程度で平成三〇年度まで実施されます。補助が付いたことは有難いのですが、使いにくい制度です。町の都合に合わせて病気になるのは大変難しいですね。詳しくは保健センターに問い合わせをお願いします。

田原本議会議員 吉田容工



保育士で無くても良いなんて？

連休はエンジョイなさっていますか？事前の週間予報とは打って変わって好天に恵まれましたね。秋のこの連休をシルバークとつぶのはまだなじみが無いように私は思っているんですが、皆さんはどうですか？何と来年は、平日に二日休みを入れると九連休らしいですよ。この呼称も、時間の問題で五月と並んで定着して行くんでしょうね。

さて、今度の九月議会で改変や制定など全部で十本の条例案が提出されたんですが、私はその内、子ども子育て支援制度（最短で来年四月実施）に関する三本の条例案には

反対しました。

この制度は、これまでの保育所や幼稚園等が、施設の名称とか仕組みとか、規模とかが細かく分かれて始まりますので、川西町の状況に照らして条例制定する事が基本なんです、国の示す基準通りのひな型にならただけです、ので、条文には、「離島にあつてはこの限りでない」などと、町に直接関係ない表現でもそのままなんです。

とりわけ大きな問題は、学童保育も含めて保育者の要件が保育士で無い者も認めている事でして、これは絶対譲らず、保育士で揃えん限りは認められないとして、声を大にして突っぱねました。

川西町議会議員 芝和也

